

奥秩父 笛吹川東沢 東ノナメ沢

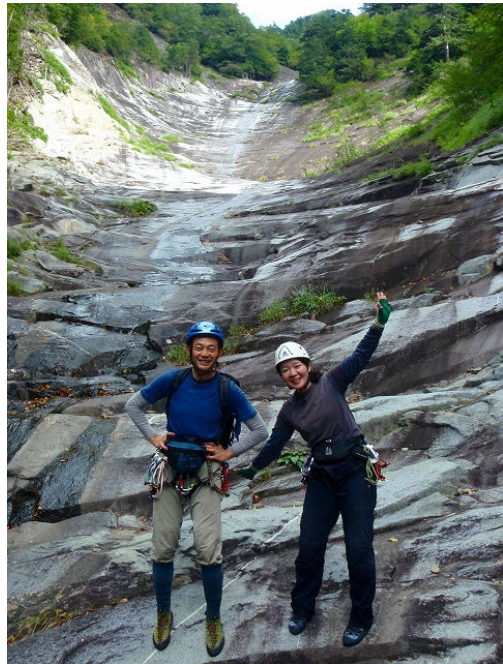
小暮

【日時】 2010年9月12日(日)

【メンバー】 L小暮、大田原、 浅井

西沢渓谷入口から登山道を辿って、東沢沿いの踏み跡を進む。アプローチは東のナメ沢の出合まで約2時間。9月になっても真夏日が続き、陽射しが暑くて非常に疲れる。鶏冠谷出合いを過ぎてからは、東沢の本流沿いの踏み跡を使い、東沢の本流に降り立つ。水量の少ない東御築江沢と、いかにも立っている乙女の沢を過ぎると、正面には東のナメ沢の300m大滝が白く光っている。

東のナメ沢出合で、溪流シューズ(アクアステルス)から、クライミングシューズに履き替える。アクアステルスも良いのだが、やっぱりクライミングシューズは快適。乾いたスラブに吸い付くようなフリクションでぐいぐい登れる。1段目は傾斜が緩いのでフリーで登っていくが、どこまでもフリーで行けそうな気もしてしまう。素晴らしい眺めなのでここで記念撮影。



大スケールの 300m 大滝

そのまま登っていくが、次第に傾斜が強くなり滑ったらやばい感じになってきたので、ザイルを結ぶ。3人なので、ダブルロープでトップが登り、セカンドとラストはほぼ同時登攀でビレイをするというシステムで登る。皆が楽しめるようにトップはじゃんけんで順番を決める。①浅井さん②大田原さん③小暮の順番でリードの交代。ロープの付け替えが面倒だが、これで皆がリードを楽しめる。

1ピッチ目は浅井さんリード。水流の左のスラブをぐいぐい登れるが、リスがほとんどなく、残置ピンもあまり無いのが辛い。50mロープが残置支点まで届かず、セカンド以降が10m程度上がったところで改めてビレイ。

2ピッチ目は大田原さんリードで、左のブッシュ混じりの凹角へ。はっきりした残置ピンが少ないので早め早めでピッチを切る。青空と白いスラブのコントラストが良いが、代わりに陽射しが暑くフライパン状態だ。

3ピッチ目は、小暮リードでスラブ左側のバンドを滝の3段目のテラスに向かってトラバース。先が良く見えないので、ここも早めにピッチを切る。



快適なクライミングを楽しむ

4ピッチ目は浅井さんリードでトラバースの続き。大滝の3段目の下に出るが、3段目の直登を避けて左側のルンゼ状を5m程上がったところでピッチをきっている。

順番どおり、5ピッチ目は大田原さんのリードで黒いスラブを登ろうとするが、逆層でホールドが乏しい上にリスも無くランニングが取れない。上の灌木もちょっと遠いため、落ちたら只ですまないために一歩が出ない。30分以上粘ったが結局諦めて一段降りることにする。シングル懸垂の要領でピレイ点から5m下降して大滝の3段目のテラスに戻る。

ここから選手交代して、改めて5ピッチを小暮リード。左側のクラックは傾斜は強いが、残置ピンもあるのでここから登る。残置のボルトがある箇所では手掛かりがなく、思わずA0。上に上がったところは広いテラス。

最後の4段目は、傾斜が緩くなる。浅井さんのリードで右から簡単に登る。これで大滝の登攀は終了だ。3段目のルートファインディングをミスして時間が掛かってしまった。

大滝の上には、15mと20mのスラブ滝があるが、15m滝は右側、20m滝は左側から巻き気味に越える。ここでスラブ登りは終了なので、ラバーソールから再び沢靴に履き替える。

ハイライトはこれで終了で、沢は覆いかぶさる樹林帯の中、倒木とガレのうるさい沢となってしまう。トポにあるナメも思ったより暗いし倒木だらけであり美しくは無い。2時間ほど沢を詰めると稜線に出た。

大田原さんの地元である山梨100名山ということで、鶏冠山を往復しようとのことで空荷で稜線を更にも上っていくが、地形図の鶏冠山の位置に道標が無く残念だねと戻ってきた。往復で約30分は掛かったので行かなければ良かった？

改めて藪っぼい鶏冠尾根を下降していく、なぜか鶏冠山の山頂の道標を発見。地形図の位置より低い位置に道標がある。地形図と道標のどちらか間違いなのだろうか。改めて山頂として記念撮影。鶏冠尾根はわかりずらく、何度も迷いながら下降する。岩峰の懸垂下降があったりと楽しみつつ尾根を下降し、ようやく登山口に戻った。

アプローチが遠く入下山に苦労はしますが、300mの大スラブ滝は圧巻でした。沢登りというよりほとんど岩登りですが、快適な登攀を満喫でき、楽しい1日となりました。

【行程】

9/12 西沢溪谷入口(6:30)～鶏冠谷出合(7:00)～東のナメ沢出合(8:40)～大滝上(12:00)～稜線(14:20/30)～鶏冠山(15:05)～西沢溪谷入口(17:50)

【地図】 金峰山